

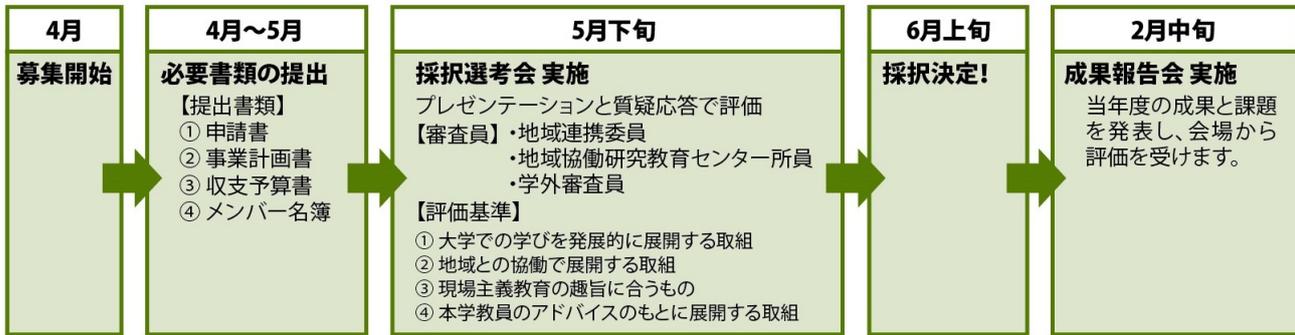
学生が自ら、地域の課題を見つけ、その解決策を模索する取組み 地域連携学生プロジェクト

「地域連携学生プロジェクト」は、地域を対象とする学生の自主的活動のなかから、地域特性を活かしつつ、成果が期待できる取組みをプロジェクトとして選定し、支援、助成しています(2007年度～2018年度採択プロジェクト数:延べ82団体)。地域に根ざし、地域に学び、地域への貢献を目指す本学の教育研究目標を達成するために、まちづくりや地域おこしなどへの学部、学科を超えた主体的な取組として、2019年度は5つのプロジェクト(継続4件、新規1件)が採択され、現在活動を進めています。今回は、今年度採択のプロジェクトを、活動の概要とプロジェクトメンバーとして活動を行う学生たちのコメントを中心に紹介します。

※    のマークがついている団体は、SNSで活動を発信しています。

( : Facebook  : twitter  : Instagram)検索いただき、ぜひ最新情報をご覧ください。

地域連携学生プロジェクト 採択までの流れと年間スケジュール



宇治☆茶レンジャー

学生が宇治茶について学び、そこで気付いた宇治茶の魅力を広く地域に発信していくプロジェクトです。地域にも根付いてきている「宇治茶スタンプラリー」の実施をはじめ、宇治茶に触れるイベントやお茶の淹れ方のワークショップなどを展開していきます。これまでも実施してきた「聞き茶巡り(参加者がお茶屋さんを巡り、店主さんとの会話と美味しい宇治茶を味わうイベント)」を、2016年度から学生ガイド付きのツアー形式に変更し、まちの魅力をさらに味わえる内容になっています。開催10周年の迎える「宇治茶スタンプラリー」では、記念企画を予定しています。



■ 最新情報ははこちら    メール:ujichale@gmail.com

●●● 参加学生の声 ●●●

宇治☆茶レンジャー 代表

小山 翔(臨床心理学部 臨床心理学科 3年次生)



宇治☆茶レンジャーは今年で10年目の団体です。10年も活動していると地元の方などに名前を覚えてもらっていたり、いろいろと声をかけて頂くことも多くあります。長く続くことで、内容がマンネリ化したりしないよう、またずっと応援して下さる「宇治☆茶レ」ファンの皆さんにもさらに喜んでいただけるように、いろいろと工夫しています。テーマにこだわった聞き茶巡りガイドのレベルアップを目指したり、「チーム茶イルド」による子ども向けワークショップの開催など新たな企画にも挑戦しています。これからも宇治☆茶レンジャーの応援、どうぞよろしくお願い致します

KASANE O (カサネオ)

「ファッション」を通じて幅広い世代が交流できる場を提供することを目的に、結成した2年目のプロジェクトです。着なくなった服(若い頃に着ていた服)を「思い出」と共に、高齢者から提供いただき、それに学生が今の感覚で着こなしを考え、ファッションショーや展示会、雑誌などで紹介していきます。服を「物」としてだけでなく持ち主の「思い出」という付加価値を付け発信することで、人とひとを繋ぐ媒介物となり、超高齢社会といわれる今、世代を越えた地域コミュニティの形成に繋がると考えています。

■ 最新情報はこちら   メール:kasaneo.2018@gmail.com



●●● 参加学生の声 ●●●

KASANE O

小宮山 葵紗 (総合社会学部 総合社会学科 1年次生)



私はサークル紹介でKASANE Oの「古着を通じて多世代交流を行う」という活動に興味を持ち入りました。自分たちで一から企画イベントを作り上げていくことが大変な分、成功したときはとても嬉しいです。また、高齢者の方々と関わる機会があるため、違った視点で物事を見ることができました。先輩方みたいになれるように、そして衣服を通じて高齢者と学生が繋がれるきっかけをつくることできるように頑張っていきたいです。

商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas

私たちは宇治橋通商店街振興組合のご協力のもと、宇治橋通り商店街の活性化活動に取り組んでいます。商店街イベントに参画し、子供向けブースや周遊イベントなどの企画をしています。今年度は、まちあるきイベント「宇治ロゲイニング」の開催に加え、気軽に誰でもをコンセプトにした「配布版宇治ロゲイニング」も実施しています。また、グルメ冊子の作成にも取り組んでいます。基本情報はもちろん、お店や店主さんについてのエピソードなどを掲載していきたいと考えています。今年度も多くの新入生を迎え、それぞれが楽しみながら活動に取り組んでいきます。

■ 最新情報はこちら   メール:canvas.uji@gmail.com



●●● 参加学生の声 ●●●

商店街活性化隊 しあわせ工房 CanVas 代表
大當 一輝 (総合社会学部 総合社会学科 3年次生)



本学のオープンキャンパスでCanVasの活動を知って、入学後はCanVasに入ろうと決めていました。特に商店街に興味があったかと言われると、そうではありませんでしたが、活動をしていくなかで宇治橋通り商店街が身近な存在になっていくことに心地よさを感じるようになりました。今年は代表として先輩方から受け継いできた想いを次の代にしっかり繋ぐために頑張りたいと思います！そして活動を通して、知ることができた商店街の魅力をどしどし伝えていきたいとおもいます！

響け！元気に応援プロジェクト

宇治を舞台にしたアニメ作品「響け！ユーフォニアム」を通して、地域とアニメファンをつなげる取り組みを行っています。活動内容はプロジェクト発足当初から実施しているファンを対象にしたキャラクターの誕生日イベント、地域の子どもを対象にしたワークショップ、聖地巡礼を目的に宇治へ訪れたファンの居場所作りなどにも力をいれています。また宇治市（商工観光課）、宇治市観光協会をはじめ地元商店街や企業と連携しながら行政への提案や企業主催の関連イベントへの協力なども積極的に行っています。そして「地域ぐるみで作品を応援」をドンドンしていきます。

■ 最新情報は[こちら](#)  メール: hibipii@gmail.com



響け！元気に応援プロジェクト 代表

山岡 玄弥（総合社会学部 総合社会学科 3年次生）

●●● 参加学生の声 ●●●



響け！元気に応援プロジェクトもおかげさまで5年目を迎えることができました。私たちの団体はアニメ「響け！ユーフォニアム」の舞台である宇治で地域の方やファンの方に楽しんでいただけるようなイベントの企画・考案をし、運営しています。最近では、ファンの方からのアイデアをイベントに起用したり、カフェを開いたりなど新しいことにも挑戦しました。熱狂的なファンの方から刺激を受けながら、今後も宇治を盛り上げていきたいと思っています。

REACH

私たち『REACH』は「当事者」をキーワードに、様々な人々のあいだの「見えない壁（障壁）」を、交流や体験・対話などを通して、少しずつ取り払うことをひとつの目標とし、多様な人々が、共に生き・共に幸せを感じられる社会（＝「ともいき社会」）のあり方を、地域の皆さんと一緒に日々考えています。今年度は、依存症の当事者の方々と、地域のバザーでアクセサリーの販売をおこなったり、福祉施設でレクリエーションの企画や運営をおこなったりしました。また、9月には「ブラインドカフェ」の開催を、11月には京都文教大学の学園祭「指月祭」への出店も予定しています。

■ 最新情報は[こちら](#)  メール: reach2019@stu.kbu.ac.jp



●●● 参加学生の声 ●●●

REACH 共同代表 高橋 直人（臨床心理学部 臨床心理学科 3年次生/左）

中村 詩帆（臨床心理学部 臨床心理学科 5年次生/右）



「私たち」は、だれしも「私たち」にしか語り得ない《言葉》をもっています。多様な人々とのかわり合いを通して生まれる「多様な《言葉》のつながり」から、地域社会の新たな「可能性」を考えていけたらと思います。（高橋）

依存症に関心を持ち学部で学んでいましたが、地域における施設建設への反対運動などに触れ、学問と現場のギャップを強く感じたことから、団体を立ち上げました。人と人とが真に出会い、体験を通して理解を深めあう場所を作りたいと思っています。（中村）